

## <白金標準先物、シバニーの賃金交渉の進展に注意・・・>



(出所：オアシス)

5月27日に中国上海市の厳格なロックダウン解除を6月1日に行うと発表され、中国国務院は2兆7600億円規模の景気刺激策で発表し、6割近くが新規ナンバープレート4万台や自動車購入時の減税、電気自動車の補助金などに充てられ、その発表を受けた白金標準先物はペナントレンジからの離脱を確認し、4月19日の高値4180円に迫る4175円まで高値を試している。

しかし南アフリカのプラチナ鉱山で3年ぶりに開始した賃金交渉では、5月24日にアンブラッツやインパラは合意したが、金鉱山の賃金交渉でストライキを行っているシバニースチールウォーターの賃金交渉は6月1日から開始している。ただシバニーの金鉱山では2ヶ月半続いたストライキが3日にCGMA（政府機関）の仲裁を受けてAMCUとNUMはシバニーと合意を発表しており、プラチナ鉱山での賃金交渉も進展する可能性が高まっている。そのため目先3758円から4175円まで7日間連続の417円幅の上昇に対する調整安の値動きに注意が必要であり、黄金比で示す0.382の調整安である4015円に向けた値動きに備えるのが妥当と思える。

### <テクニカル>

白金標準先物の日足をMACDとRCIで見た場合は、MACDではMACDとシグナルが上昇し、RCIでも短期が上昇を示している。ただ長期の上昇が止まった状態である事や日足と10日移動平均線の乖離幅が拡大した状況であることを考慮すると、目先買われ過ぎの調整が予想され、4000円へ向けた値動きに注意が必要と思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行ってください。売買の判断はお客様御自身で行ってください。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 970,600 円(2022 年 6 月 6 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 36,080 円(2022 年 6 月 6 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-3249-8827 (受付時間:平日 8:30~17:30)  
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター  
<https://www.nisshokyo.or.jp>